

ドル/円相場のトレード戦略

ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

2018年のメインシナリオとしては、サプライズな弱い米指標や米政策期待の後退、北朝鮮問題やロシア疑惑などを材料に投機筋のポジション調整による短期的な反落を繰り返しながらも緩やかなドル上昇が続くものの、上値のターゲットは118~120円程度のいうものに変更はありません。リスクシナリオとして、ドル上昇方向では、想定以上の米成長率の増加やインフレ率の加速によって長期金利が上昇する場合で、その場合には120円を超えるドル高の可能性、ドル下落方向のリスクシナリオとしては、北朝鮮との軍事衝突、米中間選挙での共和党の大敗、または日銀の政策スタンスの変化などがあった場合には100~105円を試すリスクを考えてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げています。

1

本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。掲載している情報については万全を期しておりますが、その内容について保証するものではありません。投資の最終判断はお客様ご自身でなさるようお願い致します。本資料により生じたいかなる損害については弊社及び執筆者には一切の責任を負いかねます。

ドル/円相場のトレード戦略

トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどが想定外のドル安要因となったと思われます。ただし、年初からのドル安は積み上がった円売りポジションの調整であり、基本的なシナリオは、まだ変更する必要のないものと考えています。

■短期展望

先週は、米長期金利の先高観が米国株式の大幅な下落につながり、日本株も急落、それを受けて為替市場でもリスク回避が優勢となり、ドルは大きく下落する動きとなりました。

週末には108円05銭まで下落したものの、108円台後半へと反発して週を越えています。

今週も、米長期金利と米国株式動向をにらみながらの展開となりそうですが、短期的にはドルは下げ渋る動きを考えます。

米国の3月利上げへの期待は残っており、一方的にドルが売り進まれることはないでしょう。

もっとも、ドルを大きく反発させる要因も少なく107円半ばから109円半ばでの方向感のない動きが予想されます。